

〈研究開発課題〉

知的障害特別支援学校における小中学校教科の授業実践
-生活科・理科・社会科に関する教科等横断的な学びを通して-

※2024（R6）年度より変更 〈研究開発課題〉

知的障害特別支援学校における生活科・理科・社会科のカリキュラムモデルの創造
-横断的で連続性のある学びを目指して-

※タイトルのみの変更であり、研究内容等に変更はありません。

〈研究の背景〉

多くの知的障害特別支援学校では、児童生徒の学習上の特性等を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の多様な実践が蓄積されてきました。これは、児童生徒の主体的な学びを目指すための工夫の一つであり、カリキュラム編成上、大切にされてきた学習形態の一つです。一方、今回の学習指導要領の改訂では、児童生徒に「生きる力」を育むため、各教科の目標及び内容を三つの柱で再整理されました。また学習活動に当たっては、各教科の特質である「見方・考え方」を働かせること、そして「何が身に付いたのか」「何ができるようになったのか」を明確にしなが、資質・能力の育成を図ることが求められています。

〈研究の目的〉

知的障害特別支援学校の各教科も小学校等と同様の整理がなされ、系統的に教科学習を進めていくことが求められることとなりました。

また、今回の改訂学習指導要領は各教科の目標及び内容について、小学校等と知的障害特別支援学校間の関連性が示されています。そこで3つの目的を設定しました。

- (1) 知的障害教育における
各教科等による教育実践の発信
- (2) 指導と評価の一体化に向けた
指導計画・評価計画の提案
- (3) 特別支援学校と小中学校の
連続性のある教育課程モデルの提案
(教科のうち、本研究は生活科・理科・社会科に焦点化)

授業時数の編成

学部	年間授業時数 (総時数)	研究の対象とする教科の授業時数		
		1年間		学部在籍期間
小学部	1・2年	984時間		402時間
	3・4年	1062時間	生活科 83時間	
	5・6年	1062時間	83時間	
中学部	1101時間	社会科	35時間	105時間
		理科	35時間	105時間
高等部	1163時間	社会科	35時間	105時間
		理科	35時間	105時間

〈本研究が目指すこと〉

- 〈系統性のあるカリキュラムモデルの提案〉目的(1)(2)
内容の選択や創造、また単元の配列等に関するカリキュラムモデルを示すこと。
- 〈インクルーシブ教育システムの推進〉目的(3)
全体目標から個別目標の設定・評価・改善のプロセスなど、児童生徒の個別最適な学びに繋がるカリキュラムモデルを示すこと。
- 〈知的障害教育の継承と発展〉研究の土台
単元や授業が知的障害のある児童生徒の多様な学びになるためには、題材選定や学習環境（集団編制から学習活動まで）も重要で、知的障害教育が大切に繋いできたことの一つです。そこで、知的障害特別支援学校に限らず、多様な学びの場で参考になるよう、具体的に整理しながら実践事例とともに示すことを目指しています。

※小学部は低・中・高学年の複式学級の編成をしています。

〈研究内容〉

次期学習指導要領改訂の参考に資する資料になることを目標に、対象教科に関する学習指導要領草案の作成を進めています。その際は、現行の学習指導要領（特支・小）を土台に、内容のまとめりやその配列、内容の取扱いまで、実践とともにまとめるようにしたいと考えています。

教科別の指導を進める上で学習内容を相互に関連付ける教科等横断的な学びが必要不可欠です。これは従来の教科等合わせた指導とも連続・関連する視点であり、横断的な学びを通して、各教科の目標、資質・能力を明確にした学習の積み重ねができると考えています。この点についても実践とともにまとめるようにしていきたいと思ひます。

